

共同研究

共同研究（2021年4月1日～2022年3月31日）

〈重点共同研究〉

応永・永享期文化論—「北山文化」「東山文化」という大衆的歴史観のはざままで—

（研究代表者 大橋直義、榎本渉）

〔共同研究者名〕

高橋悠介、橋本正俊、猪瀬千尋、今枝杏子、大河内智之、川口成人、川本慎自、小助川元太、小山順子、坂本亮太、重田みち、谷口雄太、貫井裕恵、山田徹、芳澤元、伊藤伸江、伊藤慎吾

〔海外共同研究員名〕

亀田俊和

〔研究発表〕

〈第11回研究会〉

2022年3月25日（オンライン同時開催）

今枝杏子「阿弥陀十一尊来迎図の成立について」

橋本正俊「慶命説話の展開と相伝」

宇都宮啓吾（ゲストスピーカー）「泉涌寺・良含と澄豪・恵鎮の流の周辺」

総合討論

司会：高橋悠介

2022年3月26日（オンライン同時開催）

大橋直義「国文学研究資料館蔵『霊巖寺縁起』と耕雲の方法」

佐々木創（ゲストスピーカー）「明魏と伏見蔵光庵『両聖記』新出史料から考える」

高岸輝（ゲストスピーカー）「紀伊国の縁起絵巻と耕雲の役割」

ディスカッション

コメント：芳澤元

司会：大橋直義

(1)

近代東アジア文化史の再構築Ⅰ—19世紀の百年間を中心に

（研究代表者 劉建輝）

〔共同研究者名〕

井上章一、石川肇、光平有希、磯田道史、稲垣智恵、森岡優紀、伊藤謙、青木信夫、上垣外憲一、陳力衛、王宝平、小倉紀蔵、

白幡 洋三郎、単 援朝、陳 繼東、仲 万美子、松宮 貴之、森田 憲司、
深尾 葉子、太田 梨紗子、南 誠、李 偉、高橋 博巳、村田 雄二郎、
岸 陽子、安藤 潤一郎、陳 捷、劉 岸偉、戦 曉梅、平岡 隆二、李 長
波、閻 小妹、張 競

〔海外共同研究員名〕

王 中忱、唐 権、孫 江、劉 序楓、孫 建軍、新井 菜穂子、王 志松

〔研究発表〕

〈第3回研究会〉

2021年6月26日（オンライン開催）

陳 力衛「出島からバタビヤへの日本知の伝播—メドハーストの役
割を中心に」

王 志松「成島柳北と『花月新誌』—日本近代文学における漢詩文
の文脈」

〈第4回研究会〉

2021年10月29日（オンライン開催）

劉 序楓「清朝宮廷旧蔵の長崎関係図絵と17-18世紀の日中関係」

孫 建軍「明治期における元長崎通事の翻訳」

〈第5回研究会〉

(2) 2022年1月29日（オンライン開催）

呂 順長「山本梅崖の漢学塾とその中国人留学生について」

青木 信夫「中国における文化遺産保護活動の15年」

文明としてのスポーツ／文化としてのスポーツ

（研究代表者 牛村 圭）

〔共同研究者名〕

フレデリック・クレインス、劉 建輝、光平 有希、田村 美由紀、増
田 斎、井上 章一、稲賀 繁美、等松 春夫、川島 浩平、古田島 洋介、
藤田 大誠、佐伯 順子、佐々木 浩雄、高嶋 航、竹村 民郎、永井 久
美子、堀 まどか、吉江 弘和、ジョン・グリーン、西山 由理花

〔海外共同研究員名〕

徐 載坤、杉田 智美

〈第6回研究会〉

2021年10月30日（オンライン開催）

上林 功（ゲストスピーカー）「東京五輪の世界新は「競技場」と密
接な関わり？ 新国立競技場の可能性を考える」

木下 秀明（ゲストスピーカー）「「体育」から「スポーツ」へ」

〈第7回研究会〉

2021年11月20日（オンライン同時開催）

川島 浩平「明治、大正、昭和前期の日本におけるスポーツ、文化、ジェンダリング（gendering）」

佐伯 順子「LGBTQとスポーツ—メディア報道とダイバーシティ」

牛村 圭「『ストックホルムの旭日』後日談—アテネ大会（1896年）再考とOuting誌の意義」

〈第8回研究会〉

2022年3月27日（オンライン開催）

浜田 幸絵（ゲストスピーカー）「メディアとスポーツの関係史：代表する身体に注がれる視線とその行方」

中澤 篤史（ゲストスピーカー）「学校体育連盟の歴史社会学：運動部活動における競争と教育」

比較のなかの「東アジア」の「近世」—新しい世界史の認識と構想のために—

（研究代表者 伊東 貴之）

〔共同研究者名〕

坪井 秀人、磯田 道史、牛村 圭、フレデリック・クレインス、瀧井 一博、松田 利彦、劉 建輝、マルクス・リュッターマン、稲賀 繁美、青木 敦、浅見 洋二、新田 元規、石井 剛、宇佐美 文理、江藤 裕之、大久保 健晴、岡本 隆司、小倉 紀蔵、踊 共二、恩田 裕正、垣内 景子、上川 通夫、苅部 直、岸本 美緒、権 純哲、児島 恭子、小島 毅、佐々木 愛、佐野 真由子、澤井 啓一、周 圓、末木 文美土、杉山 清彦、関 智英、高橋 博巳、高柳 信夫、田口 由香、陳 捷、土田 健次郎、中 純夫、永富 青地、野村 玄、林 文孝、福谷 彬、ジョン・ブリン、前田 勉、松下 道信、松野 敏之、水口 拓寿、茂木 敏夫、山村 奨、横手 裕、李 曉東、渡邊 義浩、陶 徳民、竹村民郎

(3)

〔海外共同研究員名〕

徐 興慶、趙 徳宇、新井 菜穂子、宋 琦

〈第1回研究会〉

2021年10月30日（オンライン同時開催）

伊東 貴之「共同研究の趣旨説明」

〈第2回研究会〉

2022年3月19日（オンライン開催）

青木 敦「宋代は“近世”か—経済中心南移論再考」

岡本 隆司「米中対立の起源？—帝制と憲法」

国際的文化発信のなかの日本像—柳澤健の学際的研究—

(研究代表者 芝崎 厚土、楠 綾子)

[共同研究者名]

瀧井 一博、坪井 秀人、南 直子、稲賀 繁美、齊藤 紅葉、林 洋子、堀 まどか、西田 彰一、岩井 茂樹、渡辺 かよ子、酒井 健太郎、湯浅 拓也、山本 尚史、中村 信之、金子 聖仁、坂戸 勝、前川 志織

<第1回研究会>

2021年4月24日 (オンライン開催)

瀧井 一博「研究会の趣旨」

芝崎 厚土、酒井 健太郎「柳澤健研究の現状と課題」

<第2回研究会>

2021年8月7日 (オンライン開催)

林 洋子「柳澤健と藤田嗣治——二人がたどった「世界図絵」

柳澤健著作「おせきはん」・「評論・交友篇」(『印度洋の黄昏』)を読む

<第3回研究会>

2021年12月18日 (オンライン同時開催)

岩井 茂樹「柳澤健と日泰文化会館の戦後」

中村 信之「柳澤健と国際文化事業」

武田 知己 (ゲストスピーカー)「「外務省外交」における「文化」の位置づけとその役割」

2021年12月19日 (オンライン同時開催)

書評会「『葡萄牙のサラザール』『ジャン・ジョレス』を読む」

<第4回研究会>

2022年3月12日 (オンライン開催)

西田 彰一「史料紹介：日文研所蔵柳澤健関係文書」

<国際共同研究>

身体イメージの想像と展開—医療・美術・民間信仰の狭間で

(研究代表者 安井 眞奈美、ローレンス・マルソー)

[共同研究者名]

石上 阿希、井上 章一、山田 奨治、光平 有希、川橋 範子、宋 丹丹、伊藤 謙、板坂 則子、中本 剛二、相田 満、蘆田 宏、今井 秀和、遠藤 誠之、越智 秀一、木森 圭一郎、倉田 誠、桑原 牧子、鈴木 則子、鈴木 由利子、高橋 淑子、田里 千代、波平 恵美子、松岡 悦子、宮崎 康子、エドワード・ドロット、阿部 奈緒美、木下 知威、二宮 美鈴、古川 綾子、坂 知尋、香西 豊子、稲田 健一、多田 伊織、木場

(4)

貴俊、前川 志織

[海外共同研究員名]

金 容儀、魯 成煥、杉田 智美、姜 姍、財吉拉胡

[研究発表]

<第 13 回研究会>

2021 年 4 月 24 日 (オンライン開催)

伊藤 謙「ヴァーチャル・ミュージアム 試体験 / ヴァーチャル・
ミュージアム・ワーキンググループ作成」

「報告書 執筆内容の確認 1」

「報告書 執筆内容の確認 2」

2021 年 4 月 25 日 (オンライン開催)

「報告書 執筆内容の確認 3」

<第 14 回研究会>

2021 年 8 月 9 日 (オンライン開催)

安井 眞奈美、ローレンス・マルソー「国際シンポジウム開催 (2022
年 2 月 5, 6 日) と展示、ヴァーチャル・ミュージアムの経過報
告」

財吉拉胡「近代日本と内モンゴルの医療衛生—1911–1945」

安井 眞奈美「明治期における胎児の成長図—医療・美術・民間信
仰の狭間で」

(5)

<第 15 回研究会>

2022 年 2 月 5 日 (オンライン開催)

安井 眞奈美、ローレンス・マルソー「展示「身体イメージの創造
—感染症時代に考える伝承・医療・アート」展の紹介と共同研
究会のまとめ」

東島 沙弥佳「失くしたしっぽは、「ひと」を知る鍵—文理両方の視
点から考えるしっぽの喪失」

ディスカッション「共同研究会 4 年間を振り返る」

シンポジウム「身体イメージの創造 感染症時代に考える伝承・医
療・アート」

2022 年 2 月 6 日 (オンライン開催)

安井 眞奈美、ローレンス・マルソー「身体イメージの創造—展示
のねらい」

総合司会：波瀬山 祥子

ローレンス・マルソー、石上 阿希、板坂 則子、坂 知尋、鈴木 則子
「セッション 1「身体の実現」」

安井 眞奈美、稲田 健一、姜 姍、遠藤 誠之、倉田 誠「セッション 2

「医学と美術の狭間」

伊藤 謙、木森 圭一郎、五十里 翔吾（ゲストスピーカー）、武澤 里
映（ゲストスピーカー）、布施 琳太郎（ゲストスピーカー）
「セッション3「アートとテクノロジー」」

植民地帝国日本とグローバルな知の連環

（研究代表者 松田 利彦）

〔共同研究者名〕

劉 建輝、光平 有希、高 燕文、森岡 優紀、駒込 武、高野 麻子、福
士 由紀、石原 あえか、石川 亮太、慎 蒼健、中生 勝美、李 昇燁、
加藤 道也、やまだ あつし、通堂 あゆみ、米谷 匡史、加藤 茂生、
香西 豊子、都留 俊太郎、長沢 一恵、周 雨霏

〔海外共同研究員名〕

顔 杏如、朴 潤載、陳 姪媛、鄭 駿永、廖 欽彬、单 荷君

〔研究発表〕

〈第3回研究会〉

2021年6月19日（オンライン開催）

(6) 石原 あえか「近代日本におけるドイツ林学の受容史から ゲルマ
ンの森から日本を経て台湾に続く緑のルート」

松田 利彦「水道と都市空間—大韓帝国期漢城における水道建設と
Collbran & Bostwick」

石川 亮太「日本人による朝鮮の水産調査について」

廖 欽彬「植民地期台湾の精神病学の探究—中村讓を中心に」

〈第4回研究会〉

2021年8月27日（オンライン開催）

劉 士永（ゲストスピーカー）「日本占領地区における本草の研究」

やまだ あつし「台湾総督府の林業経営と欧米諸学」

顔 杏如「1920年代植民地台湾における「生活改善」の展開」

高 燕文「『大陸に生きる』：望月百合子の情熱」

〈第5回研究会〉

2021年12月12日（オンライン同時開催）

駒込 武「林 茂生『日本統治下台湾の公教育』（1929年）再読」

通堂 あゆみ「京城帝国大学理系教授の研究活動—予科を中心に」

長沢 一恵「近代鉱業の導入と技術者養成—ベルクアカデミー・フ
ライベルクを目指した秋田鉱山専門学校を中心に—」

慎 蒼健「日本主義的医学論と生理学、臨床医学の連関」

〈第6回研究会〉

2022年3月11日（オンライン開催）

森岡 優紀「植民地の伝記史の一例として：閔妃、金玉均の伝記を中心に」

香西 豊子「近代日本におけるワクチン・血清の流通ネットワーク（の解明に向けて）」

光平 有希「精神科医療にみる日本近代音楽療法の諸相」

2022年3月12日（オンライン開催）

朴 潤裁「식민지시기 산과제도의 형성과 전개（植民地期産婆制度の形成と展開）」

通訳：陳 妊媛

鄭 駿永「植民主義教育批判としての民主主義？—呉天錫のコロナ大学博士論文と民主主義教育論のグローバルな連環」

蜘蛛の巣上の無明：電子情報網生態系下の身心知の将来

（研究代表者 稲賀 繁美）

〔共同研究者名〕

フレデリック・クレインス、石川 肇、松木 裕美、光平 有希、根川 幸男、春藤 猷一、陳 イジェ、二村 淳子、ゴウランガ・チャラン・プラダン、齊藤 紅葉、藤本 憲正、白石 恵理、森岡 優紀、今泉 宜子、飯窪 秀樹、岩井 茂樹、鵜戸 聡、江口 久美、大西 宏志、小倉 紀蔵、尾鍋 智子、加藤 善朗、君島 彩子、志賀 祐紀、申 昌浩、莊 千慧、滝澤 修身、竹村 民郎、多田 伊織、土居 浩、戸矢 理衣奈、範 麗雅、平倉 圭、堀 まどか、松村 薫子、村中 由美子、藤貫 裕、鋳物 美佳、片岡 真伊、松井 裕美、前川 志織

(7)

〔海外共同研究員名〕

デンニツァ・ガブラコヴァ、近藤 貴子、ミツヨ・デルクール＝イトナガ

〔研究発表〕

〈第6回研究会〉

2021年5月8日（オンライン開催）

稲賀 繁美「研究会趣旨説明および今年度の予定」

朴 美貞（ゲストスピーカー）「漢陽を彩る外国の館 - 極東アジアの覇権一日清日露戦争前後に諸外国の大使館建築が建ち並ぶ空間の闘ぎあい」

〈第7回研究会〉

2021年7月10日（オンライン開催）

前川 志織「明治後期から大正期にみる〈蜘蛛の巣〉としての視覚

イメージ群と岸田劉生《麗子像》

藤貫 裕「意味の網の目としての「ラング」とその批判的考察——丸山圭三郎を手掛かりに」

〈第8回研究会〉

2021年9月4日（オンライン開催）

志賀 祐紀「柳田國男の昔話採集と蜘蛛の巣」

近藤 貴子「草間彌生の網」

〈第9回研究会〉

2021年10月2日（オンライン開催）

藤本 憲正「イースターリリーの貿易とキリスト教」

申 昌浩「Web上の無明で覗く、レス(-less)進化論」

片岡 真伊「蜘蛛の巣上の翻訳者たち—零れ落ちる身心知の未来—」

〈第10回研究会〉

2021年11月27日（オンライン同時開催）

尾鍋 智子「Webの思想—通常科学と疎外をめぐって—」

多田 伊織「蜘蛛の巣を掛けその上を歩む～将棋AIとヒト」

日文研所蔵井上哲次郎関係書簡の研究——国民国家の始発と終焉

(8) (研究代表者 磯前 順一、菊田 真司)

〔共同研究者名〕

藤本 憲正、ゴウランガ・チャラン・プラダン、伊東 貴之、村島 健司、小田 龍哉、大村 一真、関口 寛、磯前 礼子、小倉 慈司、荻原 稔

〔海外共同研究員名〕

馬 冰、全 成坤、平野 克弥、宋 琦

〔研究発表〕

〈第1回研究会〉

2021年7月25日（オンライン開催）

磯前 順一「趣旨説明」

磯前 礼子「日文研所蔵井上哲次郎宛書簡DB整理のこれまでの経緯について」

コメント：小田 龍哉、村島 健司

全体討論

司会：菊田 真司

〈第2回研究会〉

2021年12月12日（オンライン開催）

磯前 順一「趣旨説明」

ゴウランガ・チャラン・プラダン、村島 健司「合評会「磯前順一

の井上哲次郎論を読む—研究史の整理とその画期性」]

司会：菊田 真司

コメント：小倉 慈司、関口 寛

〈第3回研究会〉

2022年2月13日（オンライン開催）

磯前 礼子「萩野由之書簡の翻刻およびその考察 差出日付同定への模索」

小倉 慈司「7 大正元年（1912）10月31日付大森金五郎書簡についての検討」

コメント：上村 静、萩原 稔、小田 龍哉

全体討論

司会：菊田 真司

ソリッドな〈無常〉／フラジャイルな〈無常〉—古典の変相と未来観

（研究代表者 荒木 浩）

〔共同研究者名〕

呉座 勇一、ゴウランガ・チャラン・プラダン、榎本 渉、虞 雪健、石原 知明、上杉 幹、中川 真弓、アリレザー・レザーイー、土田 耕督、河野 貴美子、橋本 雄、藤巻 和宏、山中 玲子、小山 聡子、木下 華子、佐藤 弘夫、高尾 祐太、辻 浩和、石井 公成、永井 久美子、児島 啓祐、田村 正彦、池上 保之、木場 貴俊

(9)

〔海外共同研究員名〕

エドアルド・ジェルリーニ、ヤーラ・エリオル・モリス、陸 晚霞、張 龍妹

〔研究発表〕

〈第1回研究会〉

2021年6月5日（オンライン開催）

荒木 浩「ソリッドな〈無常〉／フラジャイルな〈無常〉—古典の変相と未来観」という共同研究について—具体的な論考を提示しつつ」

〈第2回研究会〉

2021年8月8日（オンライン開催）

張 龍妹「東アジアにおける宮廷女性と文学」

荒木 浩「無常と時間—『方丈記』と『徒然草』」

〈第3回研究会〉

2021年11月13日（オンライン開催）

田村 正彦「無常観と無常感—日本文学における無常観研究について」

て一」

藤巻 和宏「近世の「無常」概念は近代に継承されたのか」

エドアルド・ジェルリーニ「無形文化を支える無常観 テクスト遺産論から学んだこと」

〈第4回研究会〉

2022年1月29日（オンライン開催）

池上 保之「『徒然草』における絵画化の一視点—江戸初期を中心に—」

陸 晚霞「『徒然草』の無常観と美意識—内典外典の利用を視座に—」

2022年1月30日（オンライン開催）

廖 欽彬（ゲストスピーカー）「根本的事実としての無常—唐木順三を通して—」

**日本のサブカルチャーと多様性 グローバルな多様化社会に貢献する
国際日本学の研究方針とペダゴジー**

（研究代表者 エドモン エルネスト・ディ・アルバン）

〔共同研究者名〕

(10)

大塚 英志、アルバロ・ダビド・エルナンデス・エルナンデス、石田 美紀、山本 忠宏、ジェームズ・ウェルカー、パトリック・ガルブレイス、須川 亜紀子、田中 東子、堀 あきこ、齊藤 巧弥、藤岡 美玲

〔研究発表〕

（※新型コロナウイルス感染症の影響により2023年度に延期して実施予定）

〈基幹共同研究〉

「かのように」という原理で形成してきた文通—「文書」概念や、その様式、記号、表象、意図性

（研究代表者 マルクス・リュッターマン）

〔共同研究者名〕

荒木 浩、榎本 渉、磯前 順一、金 泰虎、廣田 浩治、梶谷 真司、小島 道裕、森 洋久、小口 雅史、岡崎 敦、高橋 一樹、ウィッターン・クリスティアン

〔海外共同研究員名〕

ミハエル・キンスキー、イエルク・クウェンサー

〈第8回研究会〉

2021年6月12日（オンライン開催）

小口 雅史「日本古代に残された希有な私信群—現代に伝わるはず
のない紙石山紙背文書をめぐって」

〈第9回研究会〉

2021年10月16日（オンライン開催）

金 泰虎「正倉院所蔵の統一新羅文書—その機能と伝来論を中心
に—」

〈第10回研究会〉

2022年1月29日（オンライン開催）

梶谷 真司「言葉の中の身体—江戸時代の医学書・養生書における
身体が多層性」

縮小社会の文化創造：個・ネットワーク・資本・制度の観点から

（研究代表者 山田 奨治）

〔共同研究者名〕

松田 利彦、田村 美由紀、太下 義之、佐野 真由子、谷川 建司、大
石 真澄、小川 さやか、荻野 幸太郎、沢田 眉香子、服部 圭郎、服
部 正、三脇 康生、山本 泰三、吉澤 弥生、吉村 和真、山下 典子、
木村 智哉、伊藤 遊、玉野井 麻利子

〈第8回研究会〉

2021年5月15日（オンライン開催）

岡本 光博（ゲストスピーカー）「俗語イメージの占有」

津田 大介（ゲストスピーカー）「「あいつり」後のソーシャルメディ
アと文化創造の行方」

〈第9回研究会〉

2021年7月10日（オンライン開催）

太下 義之「ミュージアムの終活（または再生）」

香坂 玲（ゲストスピーカー）「縮小する農山村の担い手と知識の伝
承と産品・体験の差別化の課題」

〈第10回研究会〉

2021年9月11日（オンライン同時開催）

研究展示に向けた意見交換

〈第11回研究会〉

2021年11月13日（オンライン同時開催）

木村 智哉「映像産業史研究から見えてきたもの——現代的意義と
理論的枠組みについての試論」

谷川 建司「縮小する出版業界——プロの批評家の批評空間縮小に
よる雑誌メディアの質的变化」

(11)

〈第12回研究会〉

2022年3月12日（オンライン開催）

佐野 真由子「縮小社会の万国博覧会？」

戦後日本の傷跡

（研究代表者 坪井 秀人、宇野田 尚哉）

〔共同研究者名〕

田村 美由紀、増田 斎、葉 暁瑤、橘川 智也、劉 影、石川 巧、辛島 理人、川口 隆行、黒川 伊織、小杉 亮子、飯田 祐子、高 榮蘭、佐藤 泉、美馬 達哉、鳥羽 耕史、宋 恵媛、光石 亜由美、ニコラス・ランブレクト、キツニック・ラウリ、解放、中村 平、高畑 早希、奥村 華子、市川 遥

〔海外共同研究員名〕

キアラ・コマストリ、アストギク・ホワニシャン

〈第5回研究会〉

2021年4月10日（オンライン開催）

パネル「文学と記憶そして伝承」

田村 美由紀「語りかける声＝傷跡との接触—崎山多美の短編小説から考える」

高畑 早希「戦争記憶を民話として継承するということ—松谷みよ子等、第二次民話運動の頃を中心に」

(12)

2021年4月11日（オンライン開催）

パネル「移動者たちの戦後」

宋 恵媛「移動者たちの「在日朝鮮人文学」：帰還、密航、大村収容所」

石川 巧「中国山西省残留日本人たちの戦後」

解放「失われた植民地への眼差し」

ニコラス・ランブレクト「宮尾登美子の引揚げ小説—記憶を思い起こす苦しみ」

〈第6回研究会〉

2021年9月25日（オンライン開催）

パネル「傷跡を語る森崎和江」

奥村 華子「傷を重ねる—森崎和江の聞き書きを軸に」

佐藤 泉「森崎和江『からゆきさん』—傷跡のインターセクショナルティ」

パネル「傷跡としての1960年代」

高 榮蘭「翻訳されるレイプと男性セクシュアリティ—大城立裕「カ

クテル・パーティー」と大島渚「絞死刑」のあいだから—
増田 斎「痛みに共感するイエス像をめぐる—戦後キリスト教界
と遠藤周作」

小杉 亮子「全共闘運動の傷跡—東大闘争参加者の「その後」から」
〈第7回研究会〉

2021年12月18日（オンライン同時開催）

個別発表

坪井 秀人「妻の崩壊—江藤淳と戦後男性保守批評」

川口 隆行「在韓被爆者支援と文学—深川宗俊と御庄博実」

パネル「戦後日本と台湾の傷跡」

中村 平「台湾先住民を日本人にさせる殖民暴力とその傷跡の分有：
日本のおかげと恩という語りとの出会い」

坪田=中西 美貴（ゲストスピーカー）「台湾の移行期正義における
日本の不/在」

パネリストとディスカッサントによるディスカッション

ディスカッサント：李 文茹

〈第8回研究会〉

第55回国際研究集会

2022年2月11日（オンライン開催）

(13)

基調講演 I

ウィリアム・マロッティ「Hijikata Tatsumi and the fūten: radical
engagements with history and belonging in 1968」

ディスカッサント：鳥羽 耕史

新世代パネル I

‘Listening’ and ‘Writing’ in Post-War Japan: The Kikigaki Movement,
1950–1980

キアラ・コマストリ「The Remaking of “Folktales” in 1950s Japan:
Journal ‘Minwa’ and the Movement of Yamashiro Tomoe」

奥村 華子「The Japanese Repatriates doing ‘Kikigaki’: The Cultural
Movement of Omura Ryo and Morisaki Kazue in the 1950s and 60s
in Japan」

後藤田 和「The ‘Kikigaki’ of the Discriminated Buraku Communities:
Focusing on Michiko Shibata’s activities in the 1970s」

高畑 早希「The Development of ‘Minwa’ after the National Historical
Movement: Focusing on the Approach to Children’s Culture」

ディスカッサント：森岡 卓司

2022年2月12日（オンライン開催）

基調講演Ⅱ

呉 叡人「Nation as a Wound: State-boundary redrawing and its consequences in Post-WWII Northeast Asia, with a focus on Taiwan」

新世代パネルⅡ

「傷としての身体の変容と表象」

橘川 智哉「戦中―戦後に見る海野十三の人体改変モチーフ」

小島 秋良「「戦地再訪」作品に見る「傷」——戦地空間と身体への異変」

アストギク・ホワニシャン「「あざらしっ子」：サリドマイド事件を振り返る」

ディスカッサント：尹 芷汐

ラウンドテーブル

ウィリアム・マロッチィ、呉 叡人、高 榮蘭、佐藤 泉、森岡 卓司、尹 芷汐

司会：坪井 秀人

日本型教育の文明史的位相

(研究代表者 瀧井 一博)

(14)

〔共同研究者名〕

根川 幸男、齊藤 紅葉、稲垣 恭子、竹内 里欧、西田 彰一、齊藤 智、ジェルミー・ラプリー、安藤 幸、井上 義和、椎名 健人、高山 敬太、片山 杜秀、宇野 重規、柏木 敦、大澤 聡、大田 美佐子、阿川 尚之、足羽 與志子、礪山 麻衣、待鳥 聡史、瀬平 劉 アントン、大中有信、平松 隆円

〔海外共同研究員名〕

荻谷 剛彦

〈第4回研究会〉

2021年6月19日（オンライン開催）

瀧井 一博、稲垣 恭子、竹内 里欧「日文研共同研究会「「日本型」教育文化を問い直す―新たな人間形成論をめざして」を振り返って」

書評会「小松 光／ジェルミー・ラプリー『日本の教育はダメじゃない―国際比較データで問いなおす』（ちくま新書）の著者を囲んで」

〈第5回研究会〉

2021年12月4日（オンライン同時開催）

待鳥 聡史「体制内改革の理念としての近代主義と現実主義」

青木 栄一（ゲストスピーカー）「自著『文部科学省』を語る—応用
問題としての大学ファンド、こども庁を見据えて」

2021年12月5日（オンライン同時開催）

今後の研究会の計画について共同討議

〈第6回研究会〉

2022年3月5日（オンライン開催）

西田 彰一「水野錬太郎の教育思想—政治教育協会における取組み
を中心に」

大澤 聡「日本型「教養」の政治的帰趨」

貴族とは何か、武士とは何か

（研究代表者 倉本 一宏）

〔共同研究者名〕

榎本 渉、呉座 勇一、伊東 貴之、磯田 道史、上野 勝之、龔 婷、久
葉 智代、東海林 亜矢子、青山 幹哉、石田 俊、大石 学、岡野 友彦、
川合 康、木下 聡、京楽 真帆子、関 幸彦、高橋 昌明、田中 誠、佃
美香、告井 幸男、寺内 浩、野口 孝子、野口 実、東島 誠、樋口 健
太郎、カレル・フィアラ、服藤 早苗、堀井 佳代子、松田 敬之、松
永 和浩、美川 圭、森 公章、刑部 芳則、川西 孝男、重田 香澄、下
向井 龍彦

(15)

〔海外共同研究員名〕

宋 浣範、梁 曉弈、劉 曉峰

〈第5回研究会〉

2021年5月15日（オンライン開催）

松永 和浩「室町殿「公家化」の政治的意義」

森 公章「「武者」と「武士」—起家と新社会集団—」

磯田 道史「公家の震災復興と大名家—文政京都地震を中心に—」

〈第6回研究会〉

2021年7月10日（オンライン開催）

川合 康「治承・寿永の内乱と『平家物語』」

青山 幹哉「鎌倉四代藤原頼経の将軍就位」

松田 敬之「華士族制と「家」意識」

東海林 亜矢子「平安～鎌倉期の大饗儀礼について」

〈第7回研究会〉

2021年10月9日（オンライン同時開催）

告井 幸男「国衙軍制の一齣」

岡野 友彦「伊勢国司北畠氏は貴族か大名か」

川西 孝男「キリシタン大名蒲生氏郷と正室相応院「冬姫」に関する研究」

豊田 裕章（ゲストスピーカー）「後鳥羽院政の特色—院御所高陽院における禁中包摂の問題を中心に」

〈第8回研究会〉

2022年1月8日（オンライン同時開催）

野口 孝子「里内裏について」

関 幸彦「刀伊事件と王朝軍制—武士論を省察する」

高橋 昌明「福原遷都は離宮造りではない」

奥川 一臣（ゲストスピーカー）「平安貴族の衣—構成や形状から」

西洋における日本観の形成と展開

（研究代表者 フレデリック・クレインス）

〔共同研究者名〕

榎本 渉、井上 章一、瀧井 一博、磯田 道史、光平 有希、ゴウランガ・チャラン・プラダン、小川 仁、二村 淳子、稲賀 繁美、タイモン・スクリーチ、ジョン・グリーン、松田 清、滝澤 修身、郭 南燕、伊川 健二、スヴェトラナ・コルネーエヴァ、清水 有子、大場 はるか、アンドリュー・エリオット、蝶野 立彦、滝川 祐子、クレインス 桂子、小俣ラポー 日登美

〔海外共同研究員名〕

イェルーン・ラーメルス、宋 琦

〈第1回研究会〉

2021年10月23日（オンライン同時開催）

フレデリック・クレインス「趣旨説明」

2021年10月24日（オンライン同時開催）

井上 章一「細川ガラシャとイエズス会の物語」

松田 清「日文研外書—思い出の書物と最新の収書—」

〈第2回研究会〉

2022年2月26日（オンライン開催）

松田 清「ドイツ・プロテスタントの日本観—Evangelische Allianz
ベルリン支部と岩倉使節団との会談記事から」

井上 章一「日ユ同祖論とそのルーツ」

榎本 渉「日文研所蔵『諸師贈送手巻』から見た清代の日本観」

郭 南燕「16–17世紀イエズス会の日本観」

清水 有子「スペイン帝国の日本人観」

大場 はるか「近世の神聖ローマ帝国南部における日本人描写～対

トルコ戦争の影響に注目して～」

蝶野 立彦「16～17世紀のヨーロッパにおける《日本観の形成》と
《教派对立》との関わりについての考察——ドイツ語圏を中心
に」

小俣ラポー 日登美「18世紀—鑑としての日本」

クレインス 桂子「オランダ東インド会社関係者を通じてオランダ
に伝わった日本情報」

小川 仁「17世紀イタリアにおける日本観の変遷」

フレデリック・クレインス「17世紀後半から18世紀前半のプロテ
スタント世界における日本観の形成」

宋 琦「西洋人の見た日本宗教」

タイモン・スクリーチ「新発見「奥羽・出羽キリシタン奉答書」の
別本」

滝川 祐子「西欧における日本の知の広がり：二名法による分類、
博物学のグローバリゼーション（18世紀～）」

2022年2月27日（オンライン開催）

滝澤 修身「イエズス会宣教師の日本人観」

伊川 健二「天正遣欧使節情報のいろいろ」

スヴェトラナ・コルネーエヴァ「17～19世紀の西欧やロシアで
培われた日本の法と刑罰観」

(17)

光平 有希「19世紀西洋音楽が描く「日本」」

エリオット・アンドリュー「絵及び伝達手段としての観光葉書—
インバウンド観光で見る西洋における日本観の形成（1870—
1910）」

ゴウランガ・チャラン・プラダン「西洋における日本中世文学の受
容」

瀧井 一博「ローレンツ・フォン・シュタインと明治中期のシュタ
イン詣で」

**東アジアの Multidisciplinary Science としての本草学の再構成—実
物検証を伴う文理融合研究の新展開—**

（研究代表者 伊藤 謙、磯田 道史）

〔共同研究者名〕

劉 建輝、安井 眞奈美、石川 肇、深尾 葉子、北島 宣、飯島 真里子、
石橋 隆、多田 伊織、仲野 義文、龍村 周、清水 徳朗、藤浦 淳、細
野 靖之、前山 和範、三本木 一夫、犬伏 壮一郎、中澤 慶久、長江
惣吉、小原 正顕、宮脇 修一、古田 悟郎、玉木 久登、福本 理恵、

長谷川 義則、佐野 春仁、松田 祥宏、中村 彰宏、小林 祥一、五十
里 翔吾、武澤 里映、三谷 和男、西原 啓史、波瀬山 祥子、静 貴生、
門脇 貴教

〔海外共同研究員名〕

ブルネット・ブルネッティ、林 維真、陳 東和

〈第1回研究会〉

2021年7月3日（オンライン開催）

分科会ごとの説明

2021年7月4日（オンライン開催）

研究方針などの打ちあわせ

〈第2回研究会〉

2021年11月27日（オンライン同時開催）

次世代デジタル技術の本草学への応用についての座談会

座談形式でのディスカッション

2021年11月28日（オンライン同時開催）

研究方針などの打ちあわせ

〈第3回研究会〉

2022年2月19日（オンライン開催）

(18)

第1部

伊藤 謙「趣旨説明および挨拶」

基調講演1：近藤 誠一（ゲストスピーカー）「世界遺産・石見銀
山 15周年を祝して」

基調講演2：磯田 道史「石見銀山で語る近世の経済社会とマスク」

司会：福本 理恵

第2部

仲野 義文「講演」

石橋 隆「講演」

門脇 貴教「講演」

福本 理恵「講演」

パネルディスカッション

コーディネーター：伊藤 謙

〈第4回研究会〉

2022年2月26日（オンライン開催）

本研究会における成果報告

2022年2月27日（オンライン開催）

本研究会における成果報告

（文責：研究協力課）